# 豊田市制70周年記念で とよたひまわりポークを使った献立を提供 ――産直市場でフェア展開も

愛知県豊田市は、自動車の生産だけでなく野菜や果物、花きといった農産物の生産地としても知られる。豊田市では4月、市制70周年を記念した取り組みとして、同市の銘柄豚「とよたひまわりポーク」を使った給食メニューが考案され、豊田市内の公立小中学校と特別支援学校の計104校に提供された。

## 豚熱被害を乗り越え 再開した農場3戸で生産

「とよたひまわりポーク」は豊田市の養豚生産農家であるトヨタファーム、㈲堀田畜産、㈱内山の3戸で生産されている銘柄豚で、フィード・ワンフーズ㈱協力のもと、昨年9月に誕生。豊田市の花でもあるひまわりの種を飼料に加えていることが特徴のひとつだ。

生産農場はいずれも2019年に豚熱の被害に遭い、約1年をかけて生産を再開した。トヨタファーム代表の鋤柄雄一氏は「豊田市内のすべての養豚農家や食肉関連業、飲食店が自由に関わることができる「豊田市民のためのブランド豚」を作り、定着させていきたい」という思いからブランドを立ち上げた。

ブランドのロゴマークは市内の小中学校から公募し決定。マークのシールが貼られたパッケージで、現在は豊田市内のイオン系スーパーや、トヨタ生活協同組合が運営するスーパーの一部店舗で購入が可能だ。

## 豊田市産の畜産物として 市制70周年記念献立に

地元に根差した生産販売体制が注目され、4月には豊田市の市制70周年を記念した献立として「とよたひまわりポーク丼」が登場し、市内の公立小中学校と特別支援学校計104校に、各給食センターから日程を分けて提供された。

とよたひまわりポーク丼、おかかあえ、きびなごのから揚げ、豊田市産ももゼリー

トヨタファームの鋤柄氏（写真左）、フィードワン・フーズの加納氏

校舎内には今回の取り組みに合わせて、とよたひまわりポークの紹介コーナーを学校が独自に展開

昼食後は堀田氏（写真中央）も交え、生徒からの質問に答える時間が設けられた。また堀田氏から生徒に向けて「豚は何歳でお肉になると思いますか」といった質問が投げかけられる場面も見られた

同メニューが足助給食センターから提供された4月13日には、豊田市立足助中学校の3年生の教室に生産者の鋤柄氏と堀田畜産の堀田秀樹氏、流通を担当するフィードワン・フーズ㈱から西日本事業部営業部長の加納俊彦氏が招かれ、生産者と生徒らの交流が企画された。

鋤柄氏は「食品は、肉でも魚でも誰かが作らないと手に入りません。今回のような取り組みを通して生産者の存在を知ってほしいと思います」、加納氏は「生産者を手伝い守るという意味で、豚肉を無駄にせず販売したいと考え、銘柄豚を提案しました。豊田市民の皆さんを巻き込んで一緒にブランドを作っていきたいと思います」とそれぞれ生産に対する思いを述べ、生徒らは興味深く聞き入っていた。

今回の取り組みを企画した豊田市教育委員会教育部保健給食課担当長の中尾圭氏は「給食献立については、市の側から提案させていただきました。豊田市では「地産地食」という言葉を掲げており、現在抹茶や、市内を流れる矢作川で育った鮎を使ったメニューを実施しているほか、野菜や果物といった生産が盛んな農産物を給食に取り入れています。一方で、畜産物については生産者が少ないこともあり、ほとんど実現できていませんでした。給食の提供はある程度の供給量が必要になりますが、その点もクリアしていただき、この献立が実施できました。今回の取り組みを通して、豊田市は畜産物の生産にも取り組んでいるということを子どもたちに知ってもらいたいと思います」としている。

また堀田氏は「養豚業を再開して1年が経ちます。豚熱の被害を経て、新たなスタートを切り、その記念にもなるような取り組み。今までは消費者の顔が見えませんでしたが、こうして直接交流ができる取り組みができたのは嬉しい」と述べた。

## 豊田市のおいでん市場でとよた ひまわりポークフェアを開催

4月17日には、豊田市の産直市場「おいでん市場」でとよたひまわりポークフェアが開催された。

おいでん市場は、鋤柄氏が豊田市内の農産物・畜産物を生産する農家と連携し発起人として立ち上げた「夢農人とよた」のメンバーで、現在は会長を務める㈱アグリ

昨年12月にオープンしたばかりの「おいでん市場」

とよたひまわりポークをPRする加納氏と鍋柄氏

「おいでん市場」で販売されるとよたひまわりポーク

パックには公募により決定した鍋柄豚のロゴマークが貼られている

ユナイテッド代表取締役の大槻銳誌氏がオーナーを務める、農畜産物や食品のセレクトショップで、昨年12月にオープン。大槻氏自身が農家ということもあり、夢農人メンバーはもちろん、豊田市内の飲食店とのコラボレーション企画や、これまで培ったネットワークを基に全国からこだわりのアイテムを多数取り揃えている。

当日は鍋柄氏、加納氏のほか、夢農人メンバーがおそろいの法被を着てとよたひまわりポークをアピールするとともに、来場者にはひまわりの種が無料配布された。夏の間に育ててもらい、できた種を持参してもらうことで、とよたひまわりポークの飼料添加に利用されるという。

夢農人とよたのメンバーも協力してフェアを盛り上げた

とよたひまわりポークの今後の展開として、加納氏は「地元の食材も使った加工品などを企画していきたい」としている。